

# 新年度予算にみる 勝山市の動きを チェック！

平成28年度当初予算は、120億3,590万円で過去最大となった平成27年度当初予算と比較して10億7,438万円の減額となりました。

市の借金である市債残高は、約5,100万円減額の約124億4,600万円となる一方、市の貯金となる財政調整基金の残高も約3億4900万円減額の10億6,100万円となっています。

このような平成28年度当初予算について、市議会ではどのような審査がされたのか、特集として紹介します。

予算委員会



## 特集1 勝山市の財政危機を打開する

勝山市公共施設等管理計画（案）中間報告では、今後40年間に公共施設等に必要な経費は約1,055億円、直近5カ年の投資的経費を維持しても374億円が不足するとの試算を示しました。

議会では「人口減少で財政規模は縮小する。投資的経費は更なる削減が必要になる」「これまで施設を増やしてきて、小中学校の建て替え財源が確保できないから学校統廃合を進めるのでは本末転倒だ」など厳しい意見が出されました。

理事者は、「今年度は第5次勝山市総合計画の中間時期であることから総合計画の見直しを行い、今年度中に財政見直しを作成し、議会と協議して今後の対策を検討する」としています。

公共施設のあり方は市民生活に直結する課題であり、議会は市民の皆さんの意見を聞きながら、勝山市の財政危機をまねかないように全力で取り組む決意です。

## 特集2 農業振興施策について

農業振興施策について様々な点を確認しました。議会からの「農業委員会の中間管理事業の業務量増大に対して、対策の必要性や農業公社のあり方の検討を」という質疑に対して、「農林部の体制については、国の助成を活用するなど、臨時職員賃金を確保し農林部全体でカバーしていく。農業公社は、あり方検討会において検討する」としています。

「田舎暮らし体験交流事業についての取り組み状況は」との問いに対して、「受け入れ農家20軒、体験交流者約200名、販路開拓としてギフト商品2点、商談会参加は6回であり、パンフレットやニュースレター等でPRしている」と回答がありました。

「逸品開発・販路開拓事業・6次産業化のサポート等について」の問いには、「JAや県ともよく相談して新規導入作物等については検討していきたい。販路開拓は県の6次産業化支援センターなどと連携して進めたい」と回答がありました。

さらに、「平成32年度にオープンを予定している道の駅に地元の農産物を出店できるような支援体制づくりを進めるべきではないか」との提案に対して、「直売所・加工所連絡会などを通じて、博物館前やゆめおーれでのテント市で検証していく」と回答がありました。また、「市内の空き工場等において、ハイテク技術を駆使した農産物の生産はできないか」、今後、検討するよう提案しました。

今後とも市民の方々の要望に沿った予算の活用に心がけ、農業の普及に貢献していきます。



田舎暮らし体験の様子（高島の農家にて）